

平成23～32年度

次期総合計画策定 ニュースレター

～このまち、だいすき～

新 ざま 仕様

～快適創造宣言～

平成21年5月 創刊号

 座間市 [政策課]

電話番号：046-252-8287

ファクス：046-255-3550

【目次】

次期総合計画策定に当たって
まちづくりシンポジウムを開催しま
した！
総合計画とは？
お知らせ

特集

次期総合計画策定に当たって

座間市長 遠藤三紀夫

社会経済環境の劇的な変化や着実な少子高齢化の進行は、市役所のみでは対処できない問題であり、市民と一緒に取り組んでいかなければならない問題です。

その一方で、地域コミュニティの衰退や、本来なら子どものうちに培われてきた社会性や人への思いやり、人とのかかわりなどが無い中で大人になってしまうという問題もあります。

これまでの計画は、道路や文化会館を建設するというような目に見えることを中心にした計画でした。これからは、これらに加えて、コミュニティを形づくる人たちがどう生きていくべきなのか、お互いにどうかかわっていくべきなのかということを考えられるような、また考えるきっかけとなるような提案が必要であると考えています。計画自体をハード重視からソフト重視へ、あるいはヒューマニティ重視の計画に変えて行かざるを得ないと感じています。

座間市は、狭い市域の中に多くの人々が住んでおり、それだけ出会いの確率も高いと考えます。その中で、新たな活力を共に見い出しながら、これから先の12年に向けて皆さんの知恵を拝借しながら計画策定に取り組んでまいりますので、ご協力をお願いいたします。



まちづくりシンポジウムを開催しました！

市の将来あるべき姿を示して、その実現を図るための基本的な方向を定める次期総合計画を策定するため、4月18日、サニープレイス座間（総合福祉センター）で「みんなで考えよう！新しい座間のまちづくり！」をテーマに「まちづくりシンポジウム」を開催し、125名のご参加をいただきました。

これは、平成23年度から始まる市の次期総合計画を策定するに当たって、市のあるべき姿やまちづくりについて市民の皆さんと共に考えるために開いたもので、次期総合計画策定のキックオフとするものです。

当日はまず、産業能率大学情報マネジメント学部教授の齊藤進さんが「地域力で考える座間の都市像～市民自治の時代とまちづくりに向けて～」と題した基調講演が行われました。講演では、これまでのまちづくりの歴史が説明された後、行政が情報を積極的に公開したり市民が地域の問題を自分のこととして行動したりすることで、まちづくりに市民が積極的に参加できるようにする必要があることなどが紹介されました。

その後、市長をはじめ、自治会連絡協議会会長の大友奉さん、PTA連絡協議会会長の山本美

奈子さん、青年会議所理事長の三ツ橋栄司さんが、齊藤進さんの司会のもと、まちづくりトーク（パネルディスカッション）に参加しました。市の将来像を示すに当たって重視しておきたいことや、市に重点的に取り組んでほしいことなどについて話し合われました。

市長は、「まちづくりには市民の皆さんとの協働が不可欠です。皆さんの力と行政の力を合わせながら、住んで良かった、ずっと住み続けたいと思えるようなまちづくりができるよう、新しい総合計画を作っていきましょう」と、来場者に向けて訴えました。

その後の参加者との意見交換では、「市としても自治会の現状についてもう少し調査してほしい」「市民の話せる時間が短すぎる」などの意見が出されました。



自治会連絡協議会会長の
大友奉さん



PTA連絡協議会会長の
山本美奈子さん



青年会議所理事長の
三ツ橋栄司さん

パネルディスカッションでの発言概要

<大友 自治会連絡協議会会長>

様々な意見があって当然であるが、座間のまちづくりのために、市と自治会が連帯してやることに取り組みたい。

「情報提供」を確実に行っていただきたい。

「話し合い」が基調であると説明があったが、行政から積極的に市民の中に入ってきてほしい。市の審議会や委員会がきちんと機能するよう、情報をできる限り早く提供してほしい。座間の農業と商業について何とかしてほしい。

地球温暖化防止について積極的に取り組んでほしい。

防災対策を充実してほしい。

基地の返還に向けて積極的に取り組んでほしい。

<山本 PTA 連絡協議会会長>

子どもの安全を見守りながら、生活しやすい学校生活が送れるように努力していきたい。

・不審者情報など、携帯電話の情報配信サービス登録者だけでなく、さらに広く、確実に情報伝達する方法について考えてもらいたい。

・中学校において進路指導を行っているが、高校に通えない子どもが出てきている。みんなが高校生になれるようなフォローがあると良い。

・おみこしやお祭りがあるが、子どもが少ないということもあり、大人の参加も少ないようである。これらを復活し、盛大に行われると良いと考える。

<三ツ橋 青年会議所理事長>

今後青年会議所としては、座間市の地域資源を活かした事業を立案していきたい。

・青年会議所事業で市役所に開催場所の確保等についてお願いすることもある。我々の説明、説得力が足りない部分もあったかもしれないが、冷たく対応されたこともあった。

・地域のために生き生きと活動されている方がたくさんいると感じている。

・少子高齢社会、市民ニーズの多様化などを考えると、行政で対応できないことがでてくる。こうした部分について我々や NPO などで補完し合うような関係を行政と築いていきたい。

<遠藤三紀夫 座間市長>

・今後のまちづくりは、市民の皆さんの前向きな考えを頂戴しながら進めていくものである。このための基本的な考え方を整理していくことが計画策定のあり方である。

・市の冷たい反応についての話があったが、ここに、今後のまちづくりの鍵がある。市には、先例主義というものがあるが、やらなければ先例が作られない。このためには、多少の失敗はあっても、新しくやったことが褒められる雰囲気作りが必要である。

・要求型ではなく、自分たちはこのようにやるから、あなたたちはここをやってくださいといったようなキャッチボールが今後間違いなく必要である。

・地域資源の活用について、2年ほど前に観光協会を設立したが、自分たちの地域にあるものに価値を見いだして、それを通して地域を見つめ、自信を深め、その良さを発信していくことで地域力を高めるためのツールとして設立した。

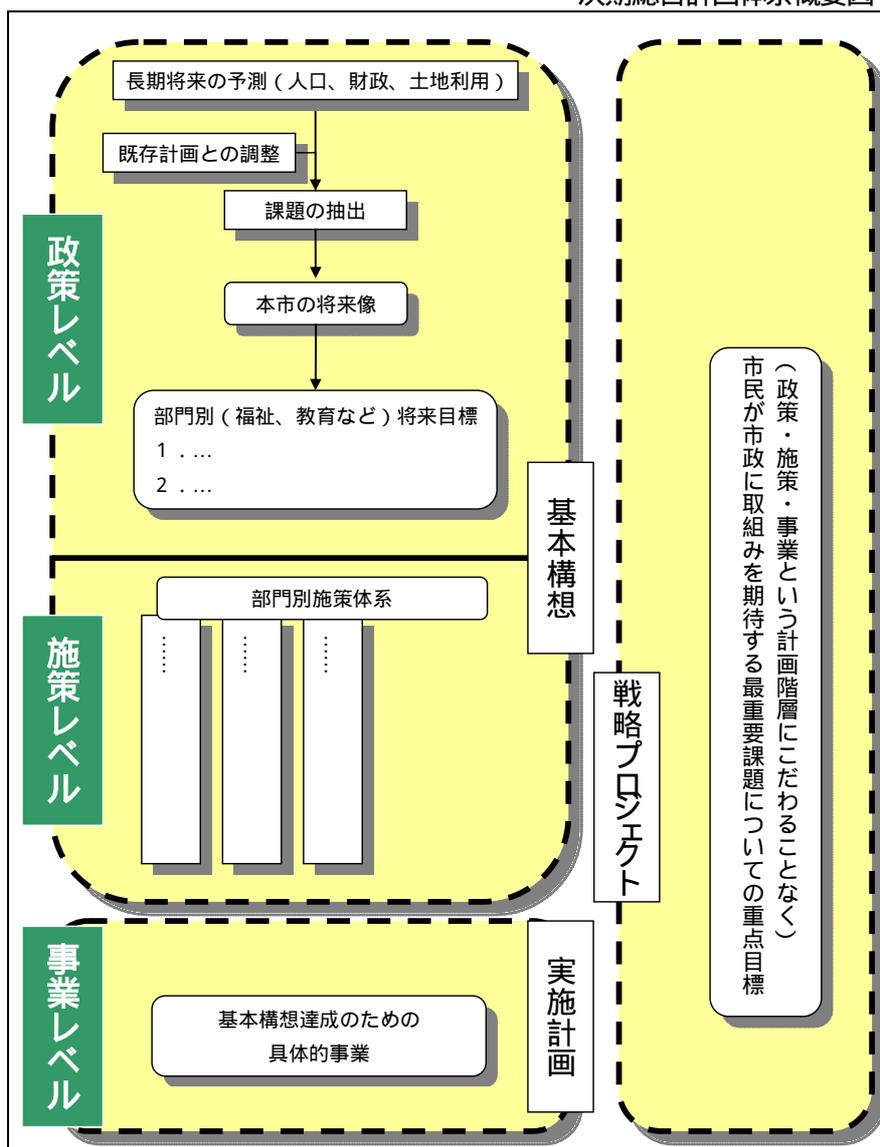
総合計画とは？

次期総合計画体系概要図

総合計画とは、長期的な展望に立って地方自治体の目指すべき将来像を描き出し、その実現に向けて総合的かつ計画的な行政の経営のための指針を示すものです。

次期総合計画では、期間を10年間とし、構成は2層（基本構想・実施計画）に簡素化します。

市民が市政に取組みを期待する最重要課題を中心に重点目標として掲げるとともに、「<仮称>戦略プロジェクト」を策定し、重点目標を明確にします。



【参考】地方自治法第2条第4項

市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。

お知らせ

このニュースレターは、総合計画の策定について、市民の皆さんに広く広報して関心を持っていただき、市民の皆さんと市が協働した次期総合計画の策定を実現するために発行するものです。

2カ月に1回程度の発行を予定しており、総合計画策定状況の進ちょく報告のほか、市民意識調査結果の説明、人口推計など、総合計画策定に関連する情報などを提供します。

なお、このニュースレターは、市ホームページへの掲載や市民情報コーナーへの配架、自治会回覧により皆さんにお知らせします。